

T a m a p D a n c e r s D e b u t !

ダンスの始まる瞬間、
そこには、すべての人に等しく
それぞれの美しさがあつて、その瞬間
私達は、共に生きることを実感する。
ここに刻もう…
刻みにいくぞー
ぼくたちのダンス！

表現の発信

ダンスワークショップ&公演

今年度は、美術以外の「新たな可能性の発掘」を目的にダンスのワークショップと公演を行いました。TAMAP±O参加施設から募った16名が、9月から4回のワークショップに参加。12月の埼玉県障害者アート企画展で開催する公演を目指し、一人ひとりが自分の表現を模索しながら、みんなで一つのダンスプログラムをつくり上げていきました。

講師は、加須市を拠点に活動する「ベストブレイス」の主宰・竹中幸子さんに依頼。ベストブレイスは、10代から70代のメンバーが、障害の有無や性別、年齢の枠を超えて活躍するダンスグループです。当初は、重い知的障害のある子どもたちのために、親たちが立ち上げたサークルでしたが、指導を頼まれた竹中幸

子さんが、親たちも巻き込み満足しました。「時間と場を共有して楽しむこと」「一人ひとりを尊重して活かす可能性を探ること」を大切に、17年間、定期公演などの活動を続けています。

今回のワークショップでは、その理念と実践にもとづくアプローチにより、みんなで楽しく動くことから、参加者それぞれの動きが広がり、表現の可能性が引き出されていきました。リズムに合わせ様々な動きを繰り返す中で、個々の表現が自信を得たような力強さを持ち始め、また、他者やみんなと一緒に動きを楽しむ中で、周りを感じながら表現するようになり、一見、バラバラな動きにも一体感が生まれていきました。

第1回WS

9/10 (日)

@キャッスルきさい
(加須市)

1

初回は、日常の動作やしぐさなど様々な動きとその発見を楽しみました。人の動きに反応したり、メンバー同士の関係を築いたり、自分の表現を探りながら、動きをダンスにしていきました。

第2回WS

10/24 (火)

@キャッスルきさい
(加須市)

2

初回同様、自由に体を動かすことを基本に、公演に向けて本番の構成や流れをつかみながら、ダンスパートの練習も進めていきました。

第3回WS

11/14 (火)

@さわやか活動館
(川越市)

3

公演を意識しながらも即興性を大切に、協力し合ってダンスを形にしていきました。

第4回WS

11/28 (火)

@川口太陽の家
(川口市)

4

ゲネプロ。これまで同様、全身の動きを開放したり、他者や全体と動きでコミュニケーションを図ったりするウォーミングアップの後、本番の流れやパートの動きを確認しました。

みんなとふれあい
だんだん慣れ
笑顔が出てきている

Tamap
Dancers
Debut!!

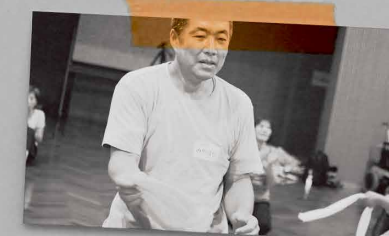
Tamap
Dancers
Debut!!

Tamap
Dancers
Debut!!

Tamap
Dancers
Debut!!

Tamap
Dancers
Debut!!

まだまだ
ごちないけど
がんばっている



ダンス公演

第8回埼玉県障害者アート企画展「うふっ♡埼玉でこんなのもつちやった♪」関連企画

「あはっ★埼玉でこんなこともやっちゃった♪」

12/10 sun

振付・構成
舞台監督
出演

竹中幸子（ベストプレイス主宰）
杉江尚子
ベストプレイス

タマツブダンスサーズ（伊藤裕・片波見知代・阿部美幸・高谷こすえ・
白井美帆・水島理佳・藤咲恵里・内野良美・加茂智史・宮原貴晃・
小林正人・飯塚毅・金子正義・福田 拓・野澤 健・杉浦純子）

そして本番。タマツブダンスサーズ（WS参加者）とベストプレイスのメンバー24名が「ラボレーション」する約40分間のダンスプログラムを公演。会場の美術館・講堂に詰めかけた大勢の観客の前で、一人ひとりが堂々と個性溢れるダンスを披露。多彩な表現が調和したエネルギーギッシユな舞台をつくり上げました。本番前は、緊張した様子も見られましたが、終了後は、全員が大仕事を終えたような達成感に満ちた笑顔を見せていました。観客からは、「わずか4回のワークショップなのに凄い」「みんな表情が真剣でかっこよかった！」「多様な表現に感動した」といった声をたくさんいただきました。また、一連のダンス活動は、参加者をはじめ担当者や周囲の人たちにも、いい影響をもたらしたようです。

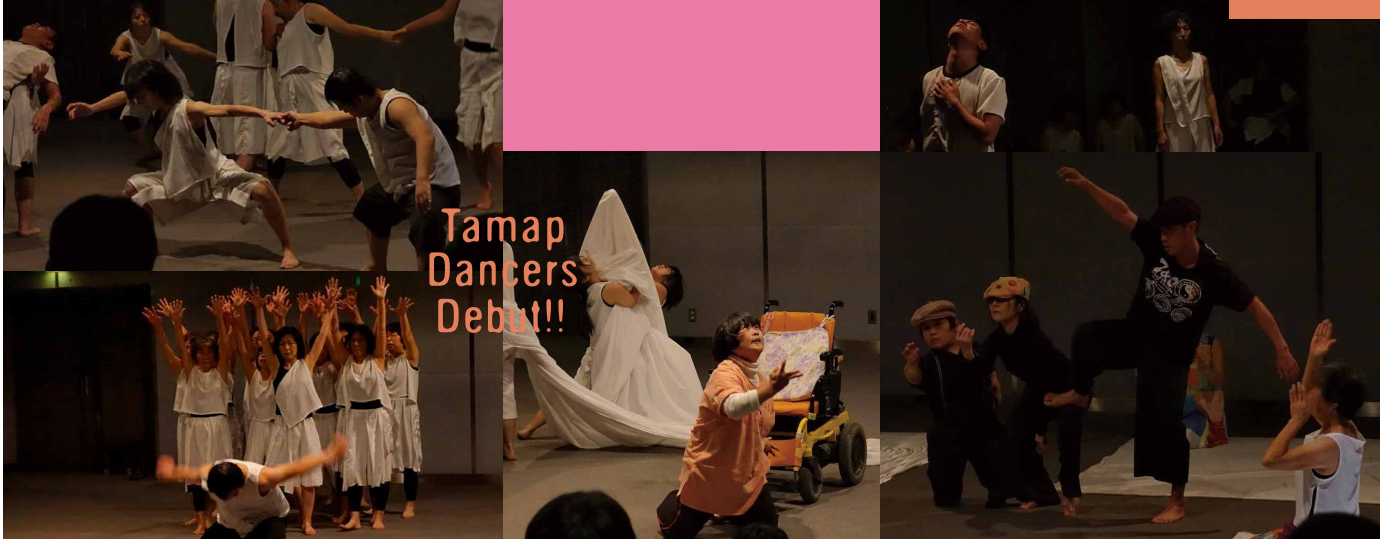


観客の感想

- 笑顔がすくあふれていた素晴らしい踊りでした。
- みんなが主人公になって生き生きしていました。
- 一人ひとりが楽しく表現していて、とても楽しい気持ちになりました。
- 一人ひとりの表情も身体の動きもとても素敵でした。
- 体で表現することの喜びを共感できて素晴らしいかったです。
- 非常に躍動感があり、生きる喜びのようなものを感じました。
- 表現力の多様さに圧倒されました。私もダンスがしたくなりました！
- 表現というものの自由さを改めて感じることができました。
- わすかな練習時間でこれほど素晴らしいものができるのだと感心しました。
- 自分の施設でも活動の中で身体表現を取り入れてみたいと思います。
- 舞台表現の面白さは目を離せないこと、もっと見ていたいと思うこと、また見たいと思うこと。今日の公演には、そのすべてがありました。

参加者などの様子や変化

- WS前日はとても楽しみにして体中で表現していた。
- 変則的な日課を好まない方で最初は緊張気味だったが、次第に他の人と関わりを持ちWS前には「楽しんだね、よろしく」と話していた。
- 元々仲良しの2人。一緒に参加してさらに仲が深まり、「ダンス楽しんだね」と話し、チラシの名前を見て喜んでいました。
- はじめは少し恥ずかしい様だったが次第に慣れ、WS会場に着くと「会いたかったよ」と笑顔でみんなの側に行き、いろんな人と楽しそうに取り組んでいた。
- 障害ゆえにうまく体を動かせないうが、練習を重ねる度に、他の人を参考にしているのか、大きく体を動かす



Tamap Dancers Debut!!



担当者の気づき

- 日常の空間では様々な「できなさ」のイメージに直結している形と動きなのに、舞台空間では強い「何か」を宿した身体として浮かび上がってくるように感じ、とても興味深い発見になった。
- 一人ひとりから踊る喜びや楽しさが伝わってきて、その強い思いに気づかされるのがたくさんあった。
- 好きなものに取り組む大切さや楽しさが見えている人にも伝わることを会場で実感した。
- 知らない人の輪にすんなり入り込めるチカラがとて
- など、より広い空間でダンスをしようとしていた。
- 公演に参加するという目標ができ、励まされたり声をかけられる機会が増えたことで、生き生きとした表情が多く見られた。
- WSでは毎回違う動きをみせ、本番では観客席でダンスを披露し会場の笑顔を誘い驚かせてくれた。
- 本番後、「楽しかった！またやりたい！」との感想が聞かれた。
- 記録した動画を楽しくそうに見ている。
- いつも一人で踊っていたがこれを機にベストフレイスに入会。休日の余暇に好きなダンスが加わり、家族も喜び応援している。
- 日常に張り合いが出て明るくなり、家族からの反響も担当職員の期待感も予想以上に高まった。
- 普段は人前で何かを発表する機会がないため、本人のがんばる姿や楽しんでいる表情を見て家族も喜んで
- 施設から大勢応援にかけつけ、終演後「良かった」「感動した」と声をかけられ喜んで
- 施設内にポスターを貼り、寄せ書きを募り、がんばってというエールを送った。
- 施設の他の仲間も、WSに出かける仲間の嬉しそうな表情を見て「いいなあ」「どんなことしてるの?」と興味深々で、公演を「見たい!」という仲間もいた。

講師プロフィール

竹中 幸子 (ベストフレイス主宰)

お茶の水女子大学文教育学部表現体育専攻卒業。聖心女子学院教諭、県立川越女子高校非常勤講師等を経て、ウォルフガングシュタンゲ・アダムベンジャミンらのワークショップに参加し、障がいのある方を含むダンスグループ「ベストフレイス」を2000年に立ち上げる。クリエイティブアート実行委員会指導者養成コース修了。障がい児デイサービス、港区ふれあいアート事業による区内10数か所の保育園・群馬県女子体育連盟夏期講習会などで健常・障がいの子どもや教職員など幅広い人々を対象にダンスワークショップを展開。復興支援として、南相馬での保育園、仮設住宅でのワークショップリーダーの経験を持つ。自身のパフォーマンス活動に加え、2007年よりベストフレイス単独公演を年1回のペースで開始。2010年松島誠氏、2015・2016年鈴木ユキオ氏、2017年作曲家新垣隆氏との共演を実現。常に新しい可能性を探り続けている。